(5) 高齢者を支える重層的ネットワーク体制の構築

高齢者を支える切れ目のない各サービスを地域の中又は市全体で機能させるためには、高齢者の日常生活上の支援等について、①地域における関係者のネットワークを構築し、②対応が必要な地域課題を把握し、③地域課題の解決のために必要な対応を行い、④地域のネットワークの中で解決できない地域課題については別途政策的な対応を行っていくという仕組みを体系的に作り上げていくことが必要です。

そのため、比較的小規模な圏域を対象としたネットワーク、ある程度広域的な圏域の調整を行うネットワーク、市全体の政策立案のためのネットワーク（各圏域ごとの地域ケア会議(※19)）をそれぞれ構築し、各圏域内及び各圏域間で連携することにより高齢者を支える重層的ネットワーク体制を構築していきます。

【主な取組】

① 小学校区単位のネットワークの構築（地域の互助活動の調整）
② 日常生活圏域（中学校区）単位でのネットワークの構築（地域包括支援センターを中心に地域課題を抽出）
③ 福祉健康センター圏域でのネットワークの構築（多職種の連携や病院と診療所との連携等の推進）
④ 金沢市介護保険運営協議会における地域課題を踏まえた政策形成機能の強化
⑤ 地域ケア会議の体系化と標準化
⑥ 地域ケア会議による地域課題解決機能の強化
⑦ 地域ケア会議により蓄積した地域課題やその対応の好事例等を活用する仕組みの検討

など

※19：地域ケア会議 地域包括ケアシステムの実現に向けた重要な手段と位置付けられており、個別ケースの課題分析等の積み重ねにより地域課題を発見し、地域に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげていく役割が期待されている。